

2010/8/19

柏の景気情報（平成22年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年7月分）

○ 調査期間 : 平成22年7月16日 ~ 7月23日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	70	65.4%
建設	19	14	73.7%
製造	23	16	69.6%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	22	13	59.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年7月の調査結果のポイント】

《業況DI3カ月ぶりに回復》

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.0(前月水準▲42.6)となり、マイナス幅が△12.6ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△18.7(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲51.8(同▲65.5)、建設業▲42.8(同▲46.1)、サービス業▲30.7(同▲33.3)である。

【建設業】からは、「業況の好転は一時的と思われ、先行き見通しはわからない」(電気工事業)等、先行きに対するコメントが多く寄せられていた。

【製造業】からは、「売上は回復傾向にあるが、以前ほどには追いつかない」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「全社的に「生産革新活動」を展開。生産効率が向上している」(ガラス・同製品製造業)、「電子パーツ等が中国へ大幅に流れているため納期確保に苦労している」(その他の機械・同部分品製造業)など、さまざまな意見が寄せられた。

【卸小売業】からは、「10～20代前半女性客の売上げの減少が顕著にみられる」(百貨店)、「青果物は一部品目が数量減単価高となっているが、消費購買意欲が無く相対的に売上は減少傾向にあります。猛暑の中で消費者が求めている商材に力を入れて行きたい」(食料・飲料卸売業)、「7月仕入価格が値下がりし8月もさらに下がる予測が発表された途端、安値による切り替えの売り込みがますます激しくなってきた」(燃料小売業)、「近隣ショッピングモールの空きテナントが増えている」(書籍・文房具小売業)等、多岐にわたる内容のコメントが上がってきた

【サービス業】では、「地域経済としては高齢化が進み目に見えて消費が下降している。業界の状況としては低価格メニューが定着しつつあるようだ」(食堂・レストラン)、「宿泊は稼働が若干上がったものの一室単価の減少により原価率が上がり利益薄。企業関係のセミナー会議、懇親会の宴会の減少。宿泊宴会ともにビジネス需要の弱さを感じる」(ホテル)などの声が寄せられた。

◎先行き不透明

各業種から、「5月の受注減少と、6～7月梅雨による工程の遅れが業況に響いている。受注は増えているが、楽観視はできない」(板金金物工事業)、「公共事業は減少。夏季賞与で減少。消費税増額予定など景気上昇になる話が出てこず、先行き不安材料ばかりです」(管工業)、「今年度になってようやく好転しているが、秋以降は不透明であり安心はできない」(その他の鉄鋼業)などのコメントが寄せられた。

◎子ども手当

各業種から、「子ども手当は当業種には効果が期待できないと思われる」(電気工事業)、「こども手当の支給も始まったもののその影響も特段実績にも現場のお客様の声としても消費を刺激するまでには至らないと思われる」(百貨店)、「子ども手当については貯金や将来の為に準備しておくお客が多い。いつまでもらえるかも不安で使えないようだ」(その他の各種商品小売業)など、子ども手当に関するコメントが寄せられた。

◎天候の影響

各業種から、「暑さのためか客足が減少、夕方に少し回復、涼しく買物ができる大型ショッピングセンターに客足が流れている?暑さのため飲料水関係が好調」(その他の飲食卸売業)、「梅雨明けとともに暑い日が続いており、見きりに入った夏物衣料品にうごきがあるが、価格低下が止まらず収益は悪い」(その他の各種)、「気温が上昇し夏日が続くと衣料品を中心に売り上げが盛り返した」(各種商品小売業)など、酷暑による経営への影響に関するコメントが多く寄せられた

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
6月	▲42.6	▲46.1	±0.0	▲65.5	▲33.3
7月	▲30.0	▲42.8	△18.7	▲51.8	▲30.7
見通し	▲17.1	▲21.4	△6.2	▲25.9	▲23.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.0(前月水準▲42.6)となり、マイナス幅が△12.6ポイント縮小した。

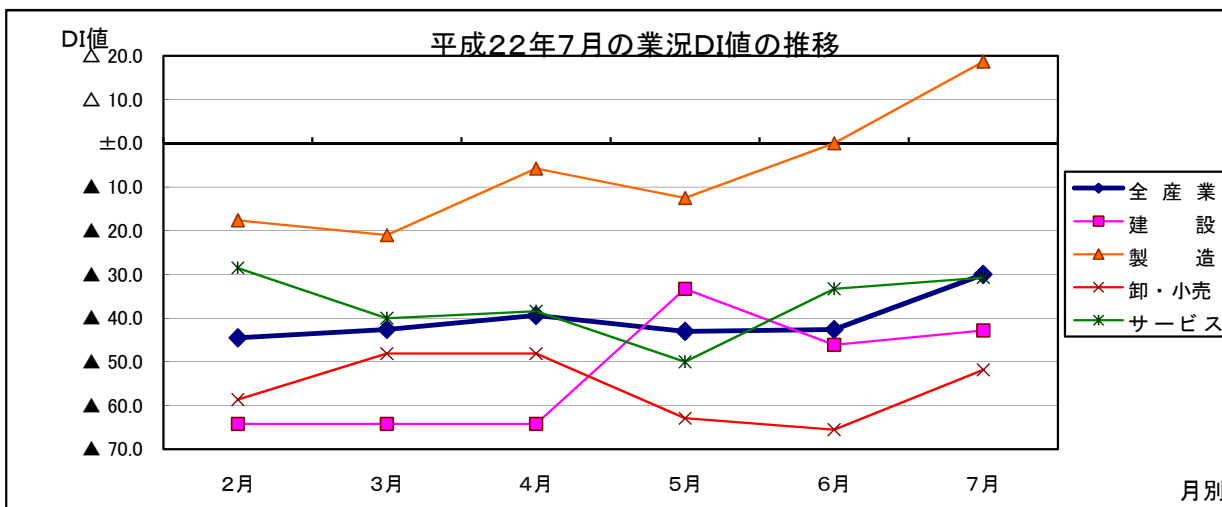
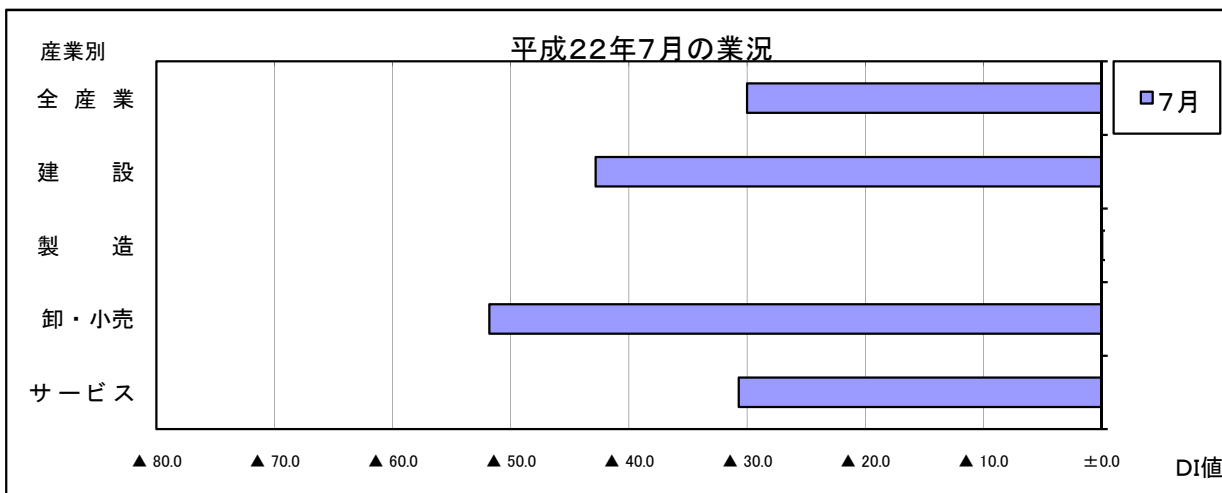
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△18.7(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲51.8(同▲65.5)、建設業▲42.8(同▲46.1)、サービス業▲30.7(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.1(前月水準▲35.2)となり、マイナス幅が△18.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△6.2(同▲7.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲25.9(同▲51.7)、サービス業▲23.0(同▲33.3)、建設業▲21.4(同▲30.7)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が△25.8ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成22年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲44.5	▲42.6	▲39.4	▲43.0	▲42.6	▲30.0	▲17.1(▲35.2)
建設	▲64.2	▲64.2	▲64.2	▲33.3	▲46.1	▲42.8	▲21.4(▲30.7)
製造	▲17.6	▲21.0	▲5.8	▲12.5	±0.0	△18.7	△6.2(▲7.1)
卸・小売	▲58.6	▲48.1	▲48.1	▲62.9	▲65.5	▲51.8	▲25.9(▲51.7)
サービス	▲28.5	▲40.0	▲38.4	▲50.0	▲33.3	▲30.7	▲23.0(▲33.3)



【平成22年7月の売上についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.4(前月水準▲38.2)となり、マイナス幅が△6.8ポイント縮小した。

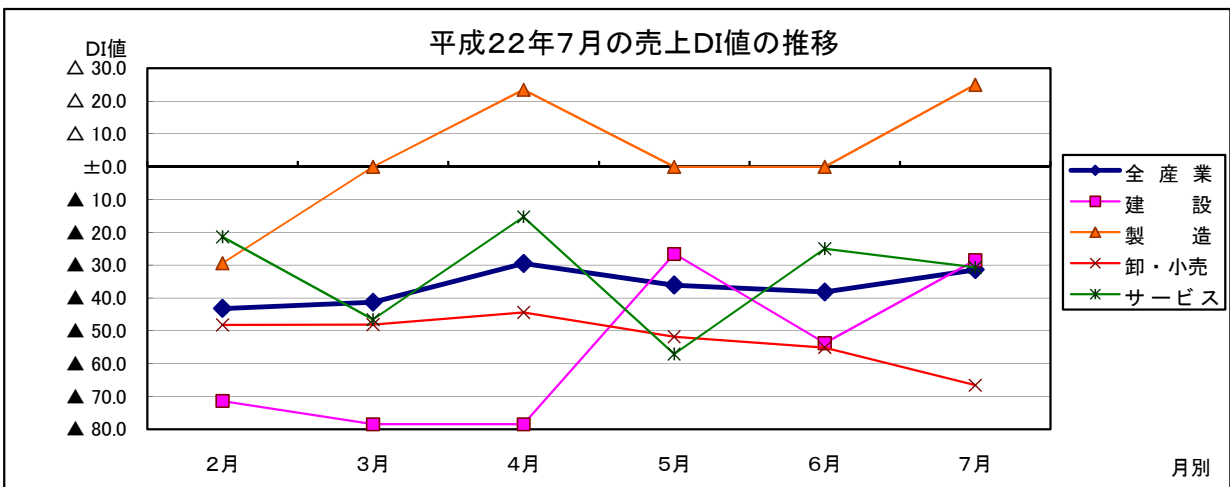
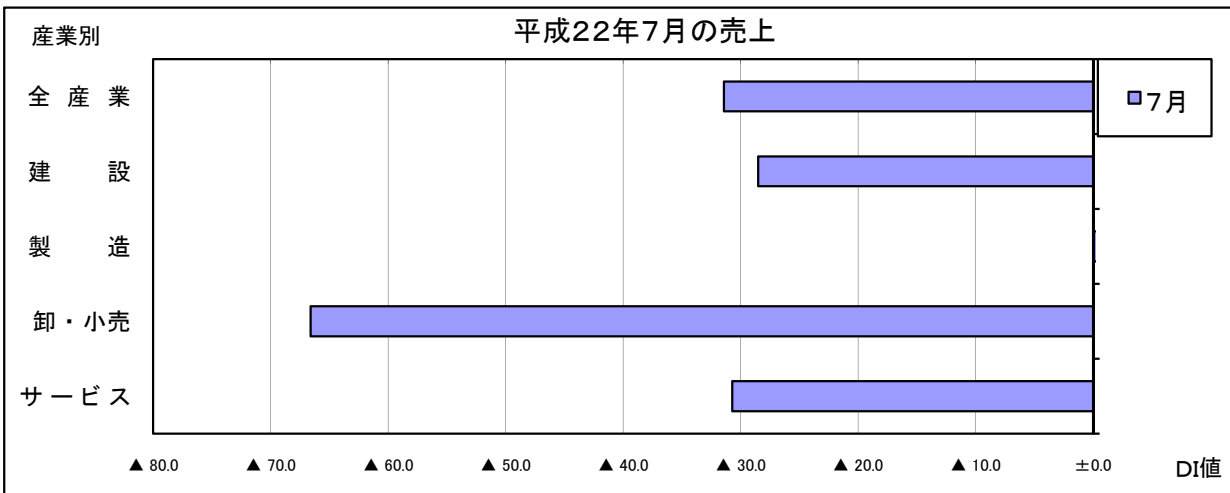
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△25.0(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲28.5(同▲53.8)であり、マイナス幅が△25.3ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲66.6(同▲55.1)、サービス業▲30.7(同▲25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.4(前月水準▲33.8)となり、マイナス幅が△12.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△12.5(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29.6(同▲51.7)、サービス業▲30.7(同▲41.6)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△22.1ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲35.7(同▲23.0)である。

平成22年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲43.2	▲41.3	▲29.5	▲36.1	▲38.2	▲31.4	▲21.4(▲33.8)
建設	▲71.4	▲78.5	▲78.5	▲26.6	▲53.8	▲28.5	▲35.7(▲23.0)
製造	▲29.4	±0.0	△23.5	±0.0	±0.0	△25.0	△12.5(±0.0)
卸・小売	▲48.2	▲48.1	▲44.4	▲51.8	▲55.1	▲66.6	▲29.6(▲51.7)
サービス	▲21.4	▲46.6	▲15.3	▲57.1	▲25.0	▲30.7	▲30.7(▲41.6)



【平成22年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲37.1(前月水準▲51.4)となり、マイナス幅が△14.3ポイント縮小した。

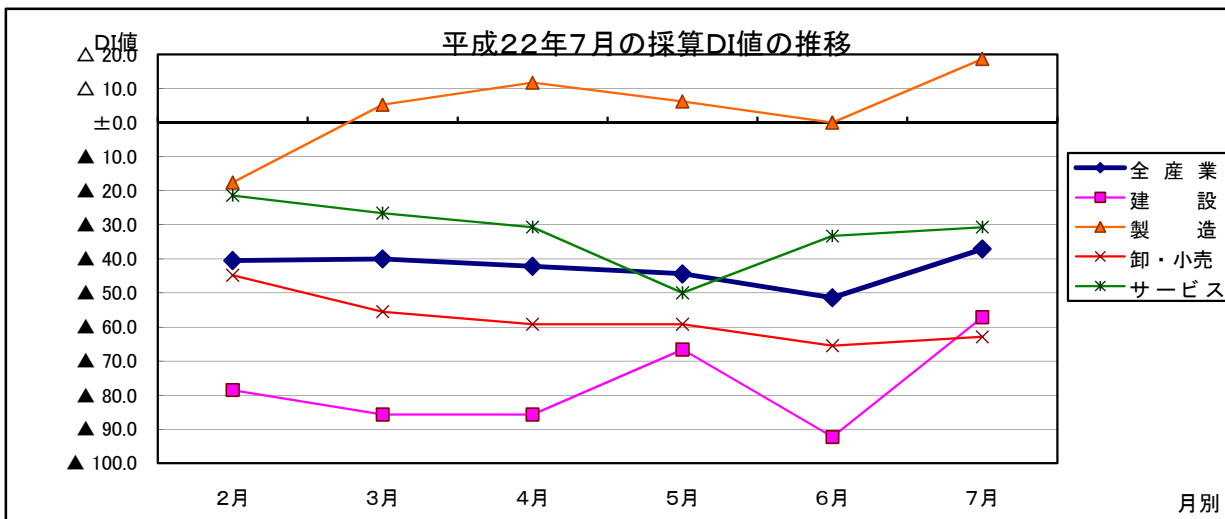
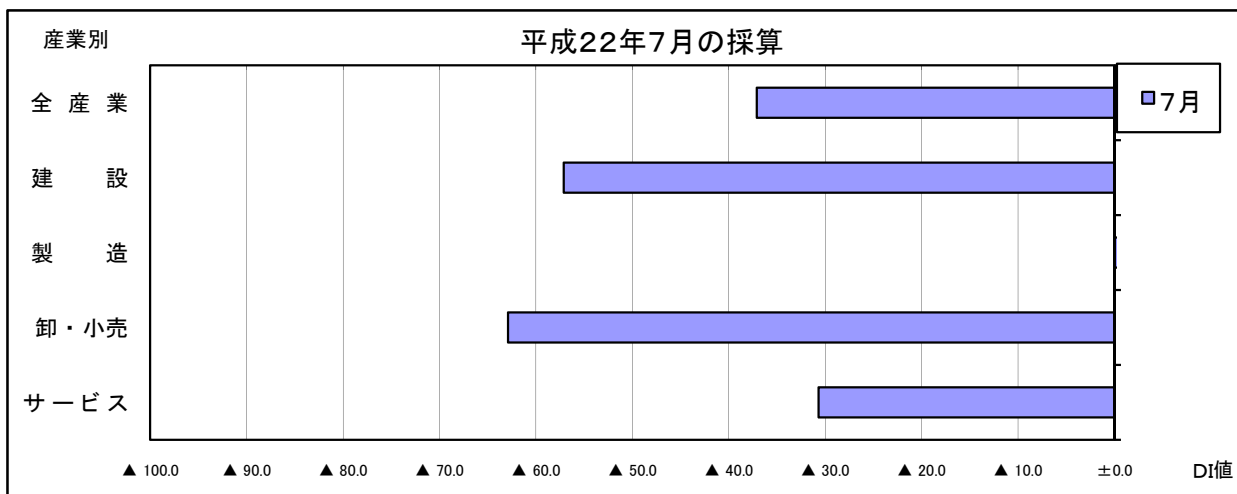
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△18.7(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲57.1(同▲92.3)、サービス業▲30.7(同▲33.3)、卸小売業▲62.9(同▲65.5)である。特に、建設業はマイナス幅が△35.2ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.2(前月水準▲41.1)となり、マイナス幅が△16.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べてプラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△6.2(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29.6(同▲55.1)、サービス業▲23.0(同▲41.6)、建設業▲50.0(同▲53.8)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△25.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成22年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲40.5	▲40.0	▲42.2	▲44.4	▲51.4	▲37.1	▲24.2(▲41.1)
建設	▲78.5	▲85.7	▲85.7	▲66.6	▲92.3	▲57.1	▲50.0(▲53.8)
製造	▲17.6	△5.2	△11.7	△6.2	±0.0	△18.7	△6.2(±0.0)
卸・小売	▲44.8	▲55.5	▲59.2	▲59.2	▲65.5	▲62.9	▲29.6(▲55.1)
サービス	▲21.4	▲26.6	▲30.7	▲50.0	▲33.3	▲30.7	▲23.0(▲41.6)



【平成22年7月の仕入単価についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.7(前月水準▲27.9)となり、マイナス幅が△12.2ポイント縮小した。

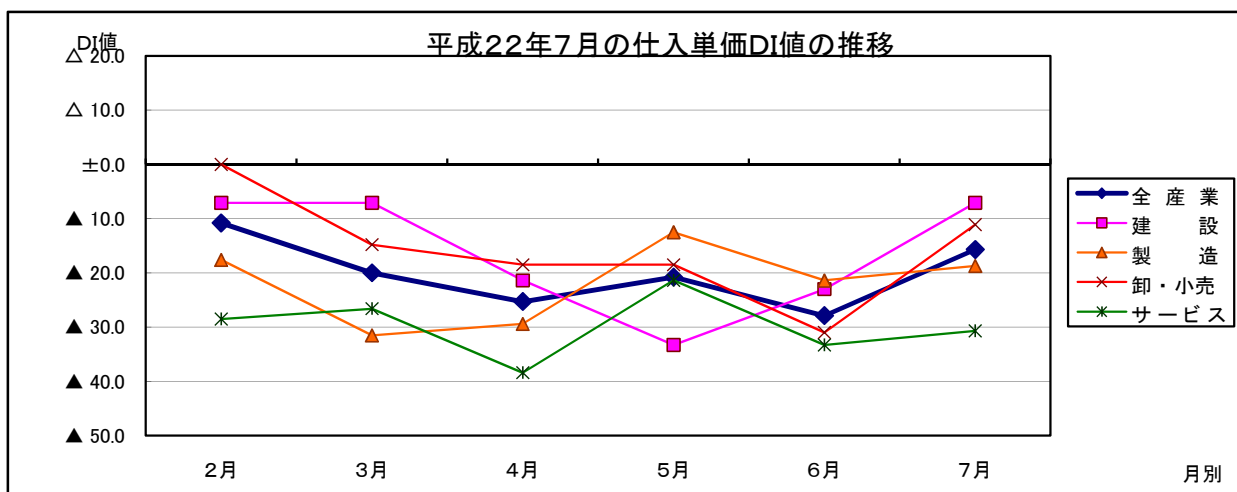
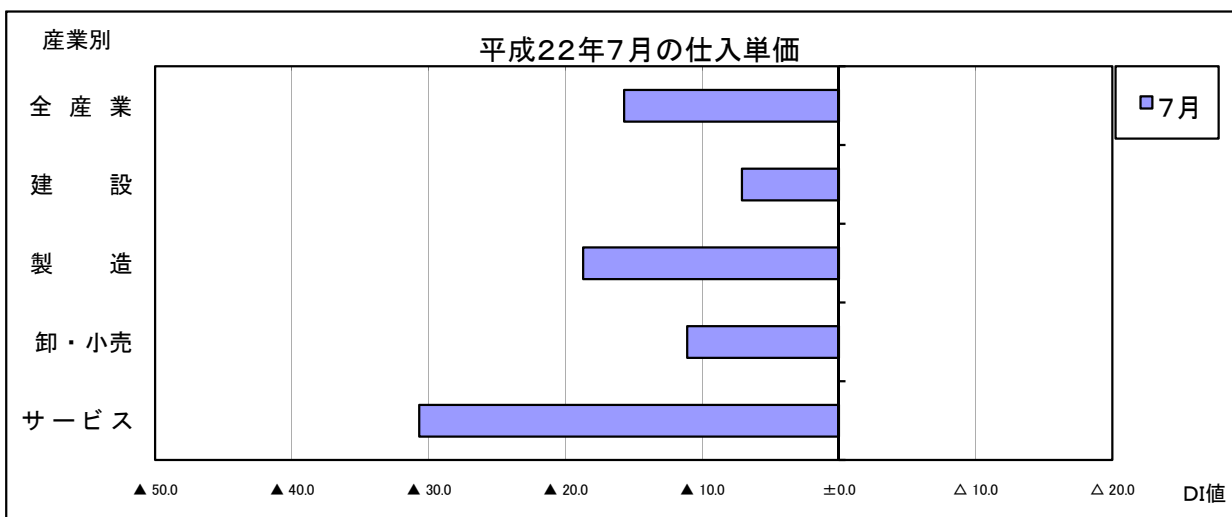
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種においてマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、卸小売業▲11.1(同▲31.0)、建設業▲7.1(同▲23.0)、製造業▲18.7(同▲21.4)、サービス業▲30.7(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.2(前月水準▲22.0)となり、マイナス幅が△7.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲7.1(同▲30.7)、卸小売業▲3.7(同▲13.7)、製造業▲18.7(同▲21.4)である。特に、建設業はマイナス幅が△23.6ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲38.4(同▲33.3)である

平成22年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲10.8	▲20.0	▲25.3	▲20.8	▲27.9	▲15.7	▲14.2(▲22.0)
建設	▲7.1	▲7.1	▲21.4	▲33.3	▲23.0	▲7.1	▲7.1(▲30.7)
製造	▲17.6	▲31.5	▲29.4	▲12.5	▲21.4	▲18.7	▲18.7(▲21.4)
卸・小売	±0.0	▲14.8	▲18.5	▲18.5	▲31.0	▲11.1	▲3.7(▲13.7)
サービス	▲28.5	▲26.6	▲38.4	▲21.4	▲33.3	▲30.7	▲38.4(▲33.3)



【平成22年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.5(前月水準▲4.4)となり、マイナス幅が▲4.1ポイント拡大した。

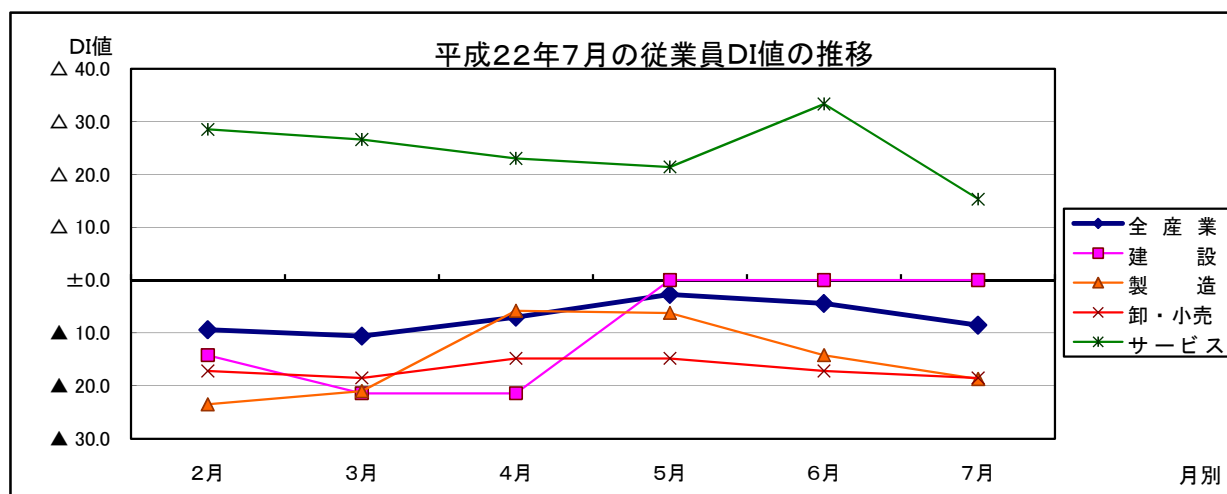
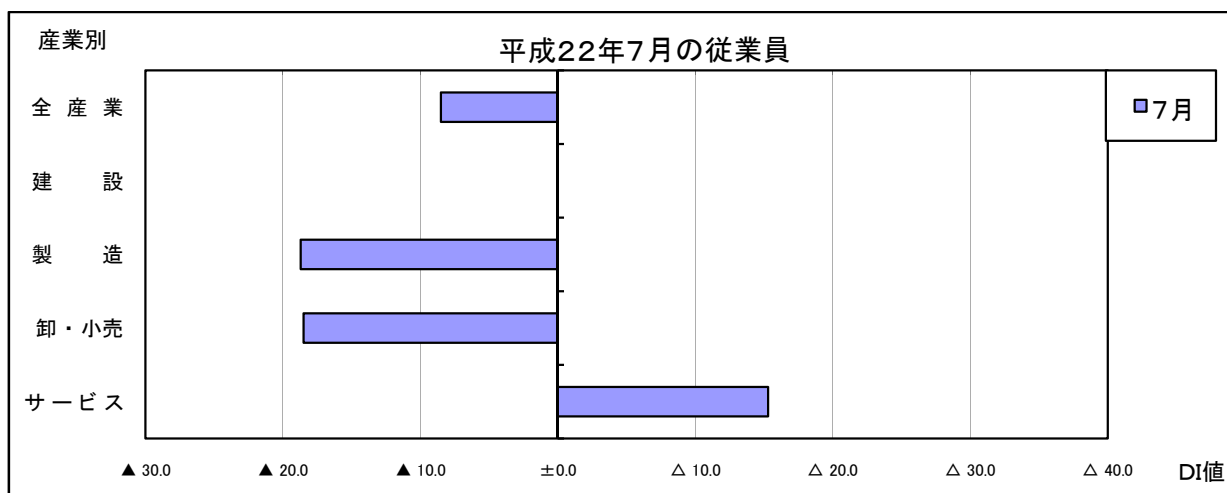
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△15.3(同△33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.7(同▲14.2)、卸小売業▲18.5(同▲17.2)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲7.3)となり、マイナス幅が▲1.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲12.5(同▲21.4)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△7.6(同△25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲18.5(同▲17.2)である。

平成22年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲ 9.4	▲ 10.6	▲ 7.0	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 8.5	▲ 8.5 (▲ 7.3)
建設	▲ 14.2	▲ 21.4	▲ 21.4	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0 (±0.0)
製造	▲ 23.5	▲ 21.0	▲ 5.8	▲ 6.2	▲ 14.2	▲ 18.7	▲ 12.5 (▲ 21.4)
卸・小売	▲ 17.2	▲ 18.5	▲ 14.8	▲ 14.8	▲ 17.2	▲ 18.5	▲ 18.5 (▲ 17.2)
サービス	△ 28.5	△ 26.6	△ 23.0	△ 21.4	△ 33.3	△ 15.3	△ 7.6 (△ 25.0)



【平成22年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.0(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅が▲△5.0ポイント縮小した。

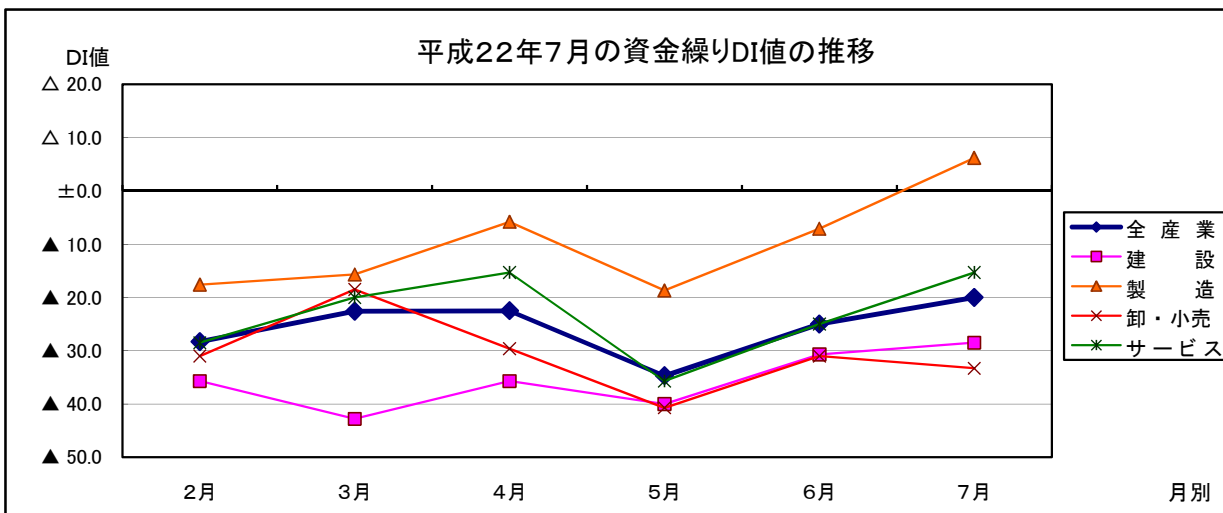
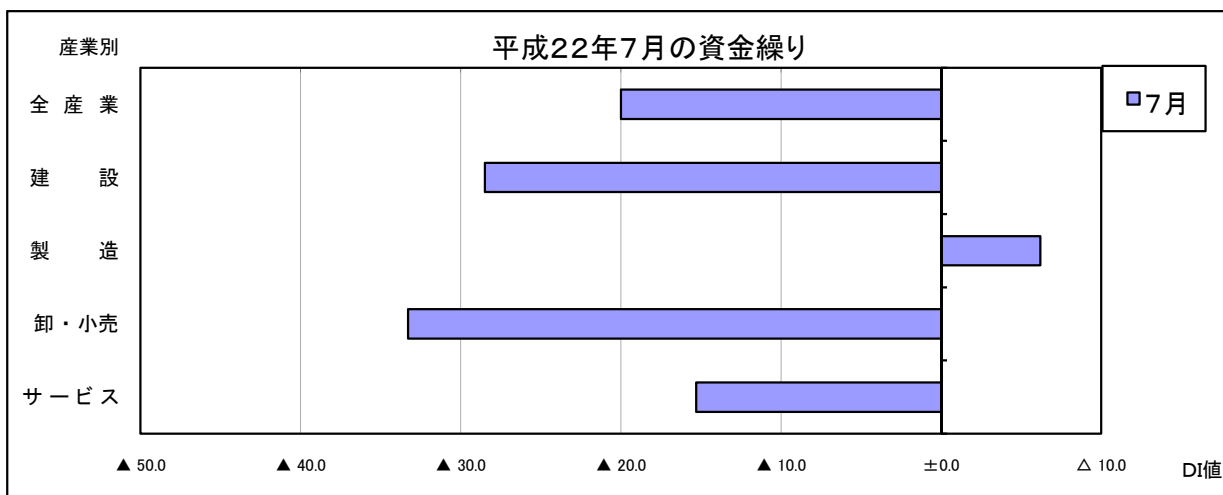
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6.2(同▲7.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.3(同▲25.0)、建設業▲28.5(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲33.3(同▲31.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.8(前月水準▲17.6)となり、マイナス幅が△4.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種においてマイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、卸小売業▲14.8(同▲24.1)、サービス業▲23.0(同▲25.0)、製造業▲6.2(同▲7.1)、建設業▲7.1(同▲7.6)である。

平成22年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成22年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲ 28.3	▲ 22.6	▲ 22.5	▲ 34.7	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 12.8 (▲ 17.6)
建設	▲ 35.7	▲ 42.8	▲ 35.7	▲ 40.0	▲ 30.7	▲ 28.5	▲ 7.1 (▲ 7.6)
製造	▲ 17.6	▲ 15.7	▲ 5.8	▲ 18.7	▲ 7.1	△ 6.2	▲ 6.2 (▲ 7.1)
卸・小売	▲ 31.0	▲ 18.5	▲ 29.6	▲ 40.7	▲ 31.0	▲ 33.3	▲ 14.8 (▲ 24.1)
サービス	▲ 28.5	▲ 20.0	▲ 15.3	▲ 35.7	▲ 25.0	▲ 15.3	▲ 23.0 (▲ 25.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 31.4	▲ 21.4	▲ 37.1	▲ 24.2	▲ 15.7	▲ 14.2	▲ 8.5	▲ 8.5
建設	▲ 28.5	▲ 35.7	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 7.1	▲ 7.1	±0.0	±0.0
製造	△ 25.0	△ 12.5	△ 18.7	△ 6.2	▲ 18.7	▲ 18.7	▲ 18.7	▲ 12.5
卸・小売	▲ 66.6	▲ 29.6	▲ 62.9	▲ 29.6	▲ 11.1	▲ 3.7	▲ 18.5	▲ 18.5
サービス	▲ 30.7	▲ 30.7	▲ 30.7	▲ 23.0	▲ 30.7	▲ 38.4	△ 15.3	△ 7.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 30.0	▲ 17.1	▲ 20.0	▲ 12.8
建設	▲ 42.8	▲ 21.4	▲ 28.5	▲ 7.1
製造	△ 18.7	△ 6.2	△ 6.2	▲ 6.2
卸・小売	▲ 51.8	▲ 25.9	▲ 33.3	▲ 14.8
サービス	▲ 30.7	▲ 23.0	▲ 15.3	▲ 23.0

【平成22年7月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	5月の受注減少とし、6、7月梅雨による工程の遅れが業況に響いている。受注は増えているが、楽観視はできない。	受注増加 天候の影響 先行き不透明	板金・金物工事業
	公共事業は減少。夏季賞与減少。消費税増額予定など景気上昇になる話が出てこず、先行き不安材料ばかりです。	公共事業減少 消費税問題 先行き不透明	管工事業(さく井を除く)
	業況の好転は一時的と思われ、先行き見通しはわからない。仕入価格は落ち着いてきたが、仕事量の見通しは不明。子ども手当は当業種には効果が期待できないと思われる	先行き不透明 仕入価格安定 子ども手当	電気工事業
製造	売上は回復傾向にあるが、以前ほどには追い付かない	売上げ回復	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	全社的に「生産革新活動」を展開。生産効率が向上している。今年度になってようやく好転しているが、秋以降は不透明であり安心はできない	生産効率向上 業況好転 先行き不透明	ガラス・同製品製造業 その他の鉄鋼業
	電子パーツ等が中国へ大幅に流れているため納期確保に苦労している	電子パーツ 中国 納期確保	その他の機械・同部分品製造業
	昨年行った設備投資の効果が現れている。厳しい環境下ではあったが躊躇しなくてよかった	設備投資効果	生コンクリート製造業
卸小売	業況については想定範囲内の推移となっているがいまひとつ好転の兆しが明確と言える状況ではない。こども手当の支給も始まったもののその影響も特段実績にも現場のお客様の声としても消費を刺激するまでには至らないと思われる	業況想定内 好転不透明 子ども手当	百貨店
	10~20代前半女性客の売上げの減少が顕著にみられる	受注減少	百貨店
	子ども手当については貯金や将来の為に準備しておくお客様が多い。いつまでもらえるかも不安で使えないようだ。売上額は確保しているが、利益は少なくなっている。値下げが多く、儲かっていない	子ども手当 売上確保 利益減少	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	青果物は一部品目が数量減単価高となっているが、消費購買意欲が無く相対的に売上は減少傾向にあります。猛暑の中で消費者が求めている商材に力を入れて行きたい	購買意欲 売上減少 消費者ニーズ	食料・飲料卸売業
	暑さのためか客足が減少、夕方に少し回復、涼しく買物ができる大型ショッピングセンターに客足が流れている？暑さのため飲料水関係が好	天候の影響	その他の飲食料品小売業
	7月仕入価格が値下がりし8月もさらに下がる予測が発表された途端、安値による切り替えの売り込みがますます激しくなってきた。取引中止の通知書が連日舞いこむ何とも耐え難い苦境に立っている	仕入価格降下 安値販売	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	近隣にできた同業店舗の影響が出ている。将来的には書籍電子化の問題が大きい	同業店舗の影響 電子化書籍	書籍・文房具小売業
	梅雨明けとともに暑い日が続いており、見きりに入った夏物衣料品にうごきがあるが、価格低下が止まらず収益は悪い。	天候の影響 夏物衣料品 価格低下 収益悪化	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	近隣ショッピングセンターのセール開催加え、買い控えもあり売上高は前年を下回る推移となった。セールでは集客企画を実施したこともあり入店客数は前年を上回ったが、売上高は買い控え傾向により前年を下回った。気温が上昇し夏日が続きと衣料品を中心に売上げが盛り返した。	セール 入店客数増加 天候の影響 夏物衣料品好調	各種商品小売業
	近隣ショッピングモールの空きテナントが増えている	空きテナント増加	書籍・文房具小売業
サービス	地域経済としては高齢化が進み目に見えて消費が下降している。業界の状況としては低価格メニューが定着しつつあるようだ	高齢化 購買力低下 低価格メニュー	食堂・レストラン
	宿泊は稼働が若干上がったものの一室単価の減少により原価率が上がり利益薄。企業関係のセミナー会議、懇親会の宴会の減少。宿泊宴会ともにビジネス需要の弱さを感じる。	単価減少 利益減少 宴会減少 ビジネス需要の低下	ホテル

◎先行き不透明

- ・ 5月の受注減少とし、6～7月梅雨による工程の遅れが業況に影響している。受注は増えているが、楽観視はできない。
- ・ 公共事業は減少。夏季賞与減少。消費税増額予定など景気上昇になる話が出ているが、先行き不安材料ばかりです。
- ・ 今年度になってようやく好転しているが、秋以降は不透明であり安心はでき

◎子ども手当

- ・ 子ども手当は当業種には効果が期待できないと思われる
- ・ 子ども手当の支給も始まったもののその影響も特段実績にも現場のお客様の声としても消費を刺激するまでには至らないと思われる
- ・ 子ども手当については貯金や将来の為に準備しておくお客様が多い。いつまでもらえるかも不安で使えないようだ。

◎天候の影響

- ・ 暑さのためか客足が減少、夕方に少し回復、涼しく買物ができる大型ショッピングセンターに客足が流れている？暑さのため飲料水関係が好調
- ・ 梅雨明けとともに暑い日が続いており、見きりに入った夏物衣料品にうごきがあるが、価格低下が止まらず収益は悪い。











平成22年7月のCCI LOBOとの比較




- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.0に対し、「CCI-LOBO」が▲39.7で、柏の方がマイナス幅が9.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.4に対し、「CCI-LOBO」が▲33.9で、柏の方がマイナス幅が2.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で、建設業製造業10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲37.1に対し、「CCI-LOBO」が▲35.8で、柏のほうがマイナス幅が1.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲19.7で、柏の方がマイナス幅が4.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業で建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.5に対し、「CCI-LOBO」が▲11.5で、柏の方がマイナス幅が3.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.0に対し、「CCI-LOBO」が▲24.6で、柏の方がマイナス幅が4.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で10ポイント以上悪い。











平成22年7月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 30.0	 42.8	 18.7	 51.8	 30.7
CCI LOBO	 39.7	 58.0	 20.6	 46.9	 41.6


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.4	 28.5	 25.0	 66.6	 30.7
CCI LOBO	 33.9	 51.3	 8.3	 45.4	 36.2


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 37.1	 57.1	 18.7	 62.9	 30.7
CCI LOBO	 35.8	 51.3	 24.4	 37.0	 39.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.7	 7.1	 18.7	 11.1	 30.7
CCI LOBO	 19.7	 27.2	 26.8	 9.3	 21.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 8.5	 ±0.0	 18.7	 18.5	 15.3
CCI LOBO	 11.5	 28.4	 9.1	 5.3	 8.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 20.0	 28.5	 6.2	 33.3	 15.3
CCI LOBO	 24.6	 38.8	 19.0	 21.3	 28.1

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(7月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年7月16日～23日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数70

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
6月	▲42.6	▲46.1	0.0	▲65.5	▲33.3
7月	▲30.0	▲42.8	18.7	▲51.8	▲30.7
見通し	▲17.1	▲21.4	6.2	▲25.9	▲23.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iが3カ月ぶりに回復

7月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、30.0(前月水準42.6)となり、マイナス幅が12.6ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業(18.7)同±0.0である。マイナス幅が縮小した業種は幅の大きい順に、卸小売業(51.8)同6.5、建設業(42.8)同4.6、サービス業(30.7)同3.0

0.7(同33.3)である。

【建設業】からは、「業況の好転は一時的と思われ、先行き見通しはわからない」「電気工事業」等、先行きに対するコメントが多く寄せられていた。

【製造業】からは、「売上は回復傾向にあるが、以前ほどには追い付かない」「ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製印刷製造業」・「全社的に「生産革新活動」を展開、生産効率が向上している」「ガラス・同製印刷製造業」・「電子パーツ等が中国へ大幅に流れているため納期確保に苦労している」「その他の機械・同部分品製造業」など、さまざまな意見が寄せられた。

【卸小売業】からは、「100〜200代前半女性客の売り上げの減少が顕著にみられる」「百貨店」・「青果物は一部品目が数量減単価高となっているが消費購買意欲が無く相対的に売上は減少傾向にあります。猛暑の中で消費者が求めている商材に力を入れていきたい」「(食料・飲料卸売業)」「月仕入価格が値下がりし8月もさらに下がる予測が発表された途端、安値による切り替えの売り込みがますます激しくなってきた」「(燃料小売業)」「近隣ショッピングモールの空きテナントが増えている」「(書籍・文房具小売業)等、多岐にわたる

内容のコメントが上がってきた

【サービス業】では、「地域経済としては高齢化が進み目に見えて消費が下降している。業界の状況としては低価格メニューが定着しつつあるようだ」「(食屋・レストラン)」「宿泊は稼働が若干上がったものの一室単価の減少により原価率が上がり利益薄、企業関係のセミナー会議、懇親会の宴会の減少、宿泊宴会などもビジネス需要の弱さを感じる」「(ホテル)などの声も寄せられた。

7月の景気キーワード

先行き不透明

各業種から、「5月の受注減少と、6〜7月梅雨による工程の遅れが業況に響いている。受注は増えているが、楽観視はできない」「(板金金物工事業)」「公共事業は減少。夏季賞与減少。消費税増額予定など景気上昇になる話が出てくず、先行き不安材料ばかりです」「(管工業)」「今年度になつてようやく好転しているが、秋以降は不透明であり安心はできない」「(その他の鉄鋼業)などのコメントが多く寄せられた。

子ども手当

各業種から、「子ども手当は

天候の影響

各業種から、「暑さのためか客足が減少、夕方に少し回復、涼しく買物ができる大型ショッピングセンターに客足が流れている。暑さのため飲料水関係が好調」「(その他の飲食卸売業)」「梅雨明けとともに暑い日が続いており、見きりに入った夏物衣料品につきぎがあるが、価格低下が止まらず収益は悪い」「(その他の各業種)」「気温が上昇し夏物が続くと衣料品を中心に売り上げが盛り返した」「(各種商品小売業)など、酷暑による経営への影響に関するコメントが多く寄せられた。

CII LOBOO比較

全産業合計では、「柏の景

当業種には効果が期待できないと思われる」「電気工事業)」「子ども手当の支給も始まったもののその影響も特段実績にも現場のお客様の声としても消費を刺激するまでには至らないと思われる」「(百貨店)」「子ども手当についてはお客足が多い。いつまでもらえるかも不安で使えないようだ」「(その他の各種商品小売業)など、子ども手当に関するコメントが寄せられた。

気が30.0に対し、「CII LOBOO」が39.7で、柏の方がマイナス幅が9.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。

CCI - L O B O

商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：平成22年7月16日～23日

調査対象：全国の407商工会議所が2651業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIは改善の勢いに 限り

7月の全産業合計の業況DIは39.7(前月比+0.8ポイント)と、前月(40.5)からほぼ横ばいで推移した。業況は持ち直しの動きが続いているものの、改善の勢いに陰りが出ている。景気回復の自律性は依然として競争激化に伴って低価格での受注や、消費者の低価格志向を意識した値下げ競争により、収益確保は難しい状況が続いている。このため、官公庁との支給状況を見ると、前年比で増額した企業は5%にも満たなかった。

先行きについては、3.4(7(前月比+0.6ポイント)と、7カ月連続でマイナス幅が縮小した。業種によつては、盛夏による業況の持ち直しを期待する声があるものの、製造業はマイナス幅が拡大しており、改善の勢いが弱まっている。一部原材料価格の上昇・高止まりや公共工事の減少、円高の影響に加え、これまで個人消費を支援していた経済対策「エコカー補助金」の期限切れを懸念する声が出ており、先行きへの不透明感が強まっている。

【建設業】「公共工事では予定入札価格を約3割も下回る金額で落札しているため、自社の採算悪化

だけでなく、下請け企業の業績にも悪影響を及ぼしている」(土木工事業)、「建設業の倒産件数は減少しているが、廃業件数の増加がそれを上回っており建設業者は激減している」(一般土木建築工事業)、「緊急保証制度を利用したが、工事の受注量が減少し、今後も受注できる見込みがないことから、返済の目途が立たない」(建築工事業)

【製造業】「半導体関連産業の好調を受けて、電子関連製品の受注が増加する見通し」(その他の金属製品製造業)、「中国・インドなど新興国需要が伸びており、自動車部品の受注は今のところ安定している」(金属加工機械製造業)、「取引先から納入価格引き下げの要求が強く、その下げ幅も非常に大きい」(その他の金属製品製造業)

【卸売業】「商品の値崩れが際限なく、このままの状況だと来年には採算の目途が立たなくなる」(衣服・日用品卸売業)、「建設資材関係の荷動きが鈍化しているため、業績見直しを下方修正した」(建築材料卸売業)、「天候不順の影響で、例年より園芸関連商品の売上が大幅に落ち込んでいる」(その他の卸売業)

【小売業】「中元ギフトセンターの売上は前年を上回っているものの、外商の売上が伸び悩んでいるため、全体としては前年を下回る見込み」(百貨店・総合スーパー)、「梅雨明け後に猛暑となり、衣

料・住居関係の一部で特需はあるが、販売単価は全般的に下落しており、売上および粗利益は低水準で推移」(百貨店・総合スーパー)、「消費者の低価格志向は根強いのが、高品質、美味といった付加価値の明確な商品の売上が持ち直している」(その他の小売業)

【サービス業】「生産拠点の海外移転が増加し、国内での生産が縮小。このため、輸送量の減少が続いている」(運送業)、「チェーン系のホテルが宿泊料金を値下げしたため、業況は厳しいが、値下げに踏み切つてつづいて宿泊客数を維持している状況」(旅館)、「天候不順により、魚や野菜など食材の仕入価格が高騰し、採算が悪化」(すし店)

7月のキーワード

仕入価格の上昇・高止まりによる影響

依然として多くの原材料や仕入価格の上昇・高止まりによる収益への悪影響を訴える声が根強い。

「仕入価格が徐々に上昇しているのに、工事の受注単価が下がっているため、業績は悪化の一途をたどっている」(松戸・左官工事業)、「自動車関連の特需があり、売上は増加したが、鋼材価格が値上がりしており、今後の業績への影響を懸念」(三島・建設機械・鉱山機

械製造業)、「トラック燃料用の軽油価格が徐々に上昇しているが、輸送価格に転嫁できない状況」(宝蘭・運輸業)

価格競争の激化

公共工事の削減に伴う採算を度外視した受注競争や、小売業などにおける消費者の低価格志向を意識した販売価格の大幅な値下げなど、価格競争の激化による収益の減少を訴える声が多い。

「公共工事の一般入札があつても、落札金額が入札予定価格を4～5割も下回り、価格破壊が起きているため、採算が全く取れない」(石岡・塗料工事業)、「ガソリンスタンド間での価格競争が激化し、収益確保の困難な状況が続いている」(横浜・化学製剤卸売業)、「個人客の財布のひもが固く、1円でも安い方に流れる傾向にあるため、宿泊単価の下落につながっている」(銚子・旅館)

経済対策の期限切れに対する懸念

エコカー補助金が9月末で期限切れを迎えることから、経済対策の効果によって下支えされていた自動車販売の落ち込みを懸念する声が多く寄せられた。

「今のところ自動車関連の仕事が入っているが、エコカー補助金の終了後は仕事が減るの

ではないかと懸念している」(西尾・鉄素形材製造業)、「エコカー補助金の終了に伴う駆け込み需要が自動車の売上を押し上げているが、期限切れ後の反動減への対策が打てていない」(横浜・自動車卸売業)、「10月以降、ディーラー各社の販売攻勢が激しくなることが予想され、過当競争による経営悪化が心配」(帯広・自動車整備業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲56.2	▲61.4	▲47.4	▲57.1	▲62.7	▲54.5
3月	▲49.3	▲52.6	▲35.6	▲50.0	▲57.7	▲52.1
4月	▲45.7	▲59.6	▲30.6	▲48.5	▲50.9	▲45.5
5月	▲39.7	▲55.3	▲25.4	▲34.6	▲46.0	▲39.5
6月	▲40.5	▲58.1	▲25.1	▲37.0	▲41.8	▲45.1
7月	▲39.7	▲58.0	▲20.6	▲33.3	▲46.9	▲41.6
見通し	▲34.7	▲49.6	▲27.2	▲30.9	▲37.0	▲31.7

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI